

【科目名】成人聴覚障害学		【担当教員】高橋 圭三 (メールアドレス) Takahashik@nur.ac.jp (オフィスアワー) 月～水 5 限						
【授業区分】 専門分野 (聴覚障害学)	【授業コード】 5-31-1205-0-1							
【開講時期】2 年次 後期	【選択必修】必修							
【単位数】1	【コマ数】8							
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 国家試験過去問題も解ける力をつけていく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 特になし。								
【講義概要】 (目的) 成人聴覚障害に対して、言語聴覚士が行う評価方法及びコミュニケーション支援方法など総体的に理解を深めることを目的とする。 (方法) 聴覚障害の評価、特にオーディオグラムの読み方を学び、そこから得られる情報と社会的要因を考慮したうえでの問題点を考察する。また、重要聴覚障害の原因についての知識を広げるとともに、聴覚障害を持つ人の各種コミュニケーション方法、リハビリテーションについて学ぶ。さらに、ろう文化への理解を深め、同時に心理・社会的困難を理解する。								
【一般教育目標(GIO)】 ・ 聴覚障害とは何かをよく知り、聴力図を読めるようにし、そこから生ずる困難を予測し、対応策について考察できる。								
【行動目標(SBO)】 ・ 聴覚障害とは何かを理解する。・ 聴覚障害の原因がわかる。・ オーディオグラムが読める。・ 聴覚障害を持つ人の困難を理解する。・ 聴覚障害を持つ人の評価法と支援の実際を理解する。・ 聾文化について理解する。								
【教科書・リザーブドブック】 特になし。								
【参考書】 山田弘幸・『改訂 聴覚障害Ⅱ－臨床編』建帛社, 2008 年. ¥2,625、中村公枝・城間将江・鈴木恵子「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院 2010 年 ¥5,460、喜多村健・『言語聴覚士のための聴覚障害学』医歯薬出版, 2002 年. ¥4,200								
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 筆記試験による。成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。								
【達成度評価】	試験	小テ スト	レポート	成果 発表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合	80	20						100 点
評 取り込む力・知識	80	20						100

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法		学修課題(予習・復習)	時間(分)				
1	聴覚障害とは何か 定義・分類	講義		予習・復習：プリント	30				
2	聴覚障害の原因(1) 伝音難聴について、解剖学、生理学で理解する	講義		予習・復習：プリント	30				
3	聴覚障害の原因(2) 感音難聴について、解剖学、生理学で理解する	講義		予習・復習：プリント	30				
4	オーディオグラムの読み方 伝音難聴と感音難聴の違い /A-Bgap	講義		予習・復習：プリント	30				
5	オーディオグラムの読み方 平均聴力/聴力型	講義		予習・復習：プリント	30				
6	オーディオグラムの読み方 疾患別	講義		予習・復習：プリント	30				
7	ろう文化、評価	講義		予習・復習：プリント	30				
8	まとめ	講義		予習・復習：プリント	30				

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。